

2025.07



九龍ジェネリックロマンス
Kowloon Generic Romance

©2025バンダイナムコフィルムワークス

壁新聞

portal newsletter

発行：株式会社バンダイナムコフィルムワークス 広報チーム



contents

- Wメディア同時展開に挑戦した理由
同じプロデュースチームによる企画・製作で差別化を図る
- Wメディアの強みが最大限に活きる作品の魅力
原作ファンも、もう一度原作を読みたくなる展開
- 映画『九龍ジェネリックロマンス』の見どころ

TVアニメ × 実写映画

Wメディア同時展開に初挑戦 『九龍ジェネリックロマンス』

Wメディア同時展開に挑戦した『九龍ジェネリックロマンス』。企画段階から一つのプロデュースチームによる同時製作、同時展開は映像業界でも珍しく、BNFにおいても初のチャレンジです。そこで、企画のねらいやそれぞれのメディアを通して伝えたい作品の魅力などについて、弊社の有澤プロデューサーに話を聞きました。

1. なぜWメディア、同時展開に挑戦したのか？

IPが持つ魅力の核となる部分をより多面的に表現すること、また、お客様に様々な形で楽しんでもらえるように間口を広く長くとする試みとして、TVアニメと実写映画のWメディア化、かつ同時展開に挑戦してみたい、という発想が発端です。展開のタイミングやプロモーションなどを連携させることで、



アニメを見て作品のファンになってくださった方が、放送終了後もその熱を持ったまま実写映画を楽しみにしてくださるなど、より広く長く作品を楽しんでいただくことができると思いました。

また、アニメは漫画や小説などの原作に近い形で映像化できるところが大きな強みでもあります、

そのアニメの作り方を理解しているスタッフが実写映画も手掛けることで、より原作に寄り添った作品づくりができるのではないかと考えました。

同じプロデュースチームによる企画・製作で差別化を図る

今回、アニメと実写を同じプロデュースチームが手掛けたことも新しい試みでした。一つの作品をアニメと実写それぞれでメディア化されている作品は多くありますが、企画段階から同時展開をねらい、かつ両方を同じプロデュースチーム、プロデューサーが手掛ける、というケースは少ないと思います。それは、そもそもアニメと実写を同じ会社で企画・製作し、それを現場レベルでスタッフが連携して担当する、という環境がなかなかないことが理由の一つだと思います。BNFはその両方を手掛けてきた土壌があり、私自身も、これまでアニメや特撮、深夜ドラマなど様々な映像作品を担当してきました。両方にアプローチできる環境と人材がいたからこそそのチャレンジになったと思います。昨今はアニメも実写も制作本数が非常に多く、他にない新しい挑戦をして差別化を図っていくことも必要だと考えています。



2.

Wメディアの強みが活きる作品 『九龍ジェネリックロマンス』の魅力とは

企画に当たっては、**アニメと実写の両方の特徴を活かせる作品**を検討しました。その中で『九龍ジェネリックロマンス』が決め手となったのは、しっかりとした人間ドラマが軸にあることと、アニメ、実写どちらでも映像映える魅力的な“九龍”が舞台であったことがポイントでした。

その他にもラブロマンスやミステリーたっぷりの設定など、引き込まれる要素が沢山ある作品ですので、ストーリー展開も**それぞれのメディアの強みを捉えながら企画**を進めていきました。

アニメは毎週1話ずつ放送されるTVシリーズであることを前提に「一体どうなるの!？」と次が気になるような展開にする一方、実写映画は一気に結末まで見せることができるので、集中して見ていただくことで生まれる感情の流れを大切に「一つの切ないラブロマンスを見届けた」と思える作品にしました。

原作ファンも、もう一度読みたくなる!?

各メディアで強調する部分があるということは、取舍選択も必要になってきます。ここは**同じプロデュースチームだったからこそ**

2つの選択肢を持つことができ、思い切った判断ができたと思います。アニメ、実写それぞれが原作漫画を軸にコラージュのようになっているので、未読の方は読みたくなることは勿論、原作からアニメ、実写とお楽しみいただいた方も、もう一度原作に立ち返りたくなると思います。

また、原作が連載中にもかかわらずこうした展開ができたのは、原作者の眉月じゅん先生をはじめ、関係各所・スタッフの皆様にもこのWメディア化という企画を面白いと思っていただき、多大なるご協力をいただけたからこそ実現できました。この後は、いよいよ原作漫画での結末も待っていますので、ぜひそれぞれの魅力を味わっていただきたいと思います。



3. いよいよ8月29日（金）から全国公開！ 映画『九龍ジェネリックロマンス』の見どころは？

本作の舞台はかつて香港に実在した“九龍城砦”ですが、その風景を再現するため、今なお狭く雑多な路地裏の商店など、誰もがなぜか懐かしさを感じるような古い街並みを残す台湾でロケをさせていただきました。セットやCGではなく海外でのロケだからこそ生まれた“九龍”のじっとりした湿度の感触や、リアルならではの街が醸し出す雰囲気、そして何より生身の人間が演じるからこそ表現できる心の揺れ動きが見どころ

です。謎に包まれたストーリーと不可解な“九龍”に隠れてしまいがちな、主人公たちが抱える苦しく辛い状況、あがきながらも前に進もうとするある種の痛み、ロマンスの素晴らしさは、ぜひ実写映画を見て感じていただきたいです。また、アニメと実写であえて視点を変えて表現をしている部分もありますので、ぜひ両方お楽しみいただければと思います。



©眉月じゅん／集英社・「九龍ジェネリックロマンス」製作委員会

©眉月じゅん／集英社・映画「九龍ジェネリックロマンス」製作委員会

今回得た経験と今後に向けて

今回、シナリオや演出をはじめ宣伝まで、すべての工程において**2つの視点を持ちながら作品と向き合う**ことで、これまでよりさらに原作の本質の部分を深く考えながら映像をつくりあげてきました。この考え方は、アニメや実写単独であっても、また、原作の有無にかかわらず、**IPの本質を捉えて作品をつくっていく**、という点において大きな経験値となりました。現在、全世界でアニメの市場規模は拡大していますが、この経験を活かし、さらに世界中を感動の渦に巻き込むような“いいもの”を生み出し、届けていきたいと思っています。

バンダイナムコフィルムワークス

プロデューサー 有澤 亮哉（ありさわ りょうや）

2011年にバンダイビジュアル（現バンダイナムコフィルムワークス）入社後、円谷プロダクション作品のウルトラマンシリーズを担当し、アニメ『さばげぶっ!』でアシスタントプロデューサーを務める。その後プロデューサーとしてアニメ『荒野のコトブキ飛行隊』や深夜ドラマ『SEDAI WARS（セダイウォーズ）』、アニメ『ブルーロック』シリーズなど、アニメや特撮など様々な映像作品を手がける。



『九龍ジェネリックロマンス』について

累計発行部数150万部超え、『恋は雨上がりのように』の眉月じゅん最新作漫画にして超人気ミステリー・ラブロマンス『九龍ジェネリックロマンス』（集英社/週刊ヤングジャンプ連載）を同一プロデュースチームによりアニメ&実写でWメディア化。
TVアニメの主演を白石晴香（鯨井令子役）と杉田智和（工藤発役）、実写映画の主演を吉岡里帆（鯨井令子役）と水上恒司（工藤発役）が務めます。

～story～

くーろんじょうさい
ノスタルジー溢れる街・九龍城砦の不動産屋で働く鯨井令子（くじらいれいこ）は、職場の先輩・工藤発（くどうはじめ）に淡い恋心を抱いていた。ふと見つけた一枚の写真から、工藤には過去に自分と瓜二つの婚約者がいたことを知る。失くした記憶、もう1人の自分の正体、そして九龍の街に隠された巨大な秘密…過去・現在・未来が交錯する中、恋が、秘密を解き明かすー

『九龍ジェネリックロマンス』Wメディアサイト化公式サイト

▶ <https://kowloongr.jp/>